

ぶどう「シャインマスカット」の支梗の利用による省力栽培技術の確立

要約

シャインマスカットの花穂整形において支梗を利用することにより、従来の主穂先端利用に比べ花穂整形及び摘粒の作業時間がそれぞれ 43%、82%まで短縮された。支梗利用区と主穂先端利用区の収量及び果粒肥大に大きな差異は認められなかった。

○ 展示のねらい

シャインマスカットの無核栽培において、花穂整形に支梗を利用することにより、花穂整形及び摘粒の作業時間の短縮を目指す。

○ 主な成果

花穂整形に支梗を利用した場合の作業時間は、23.7 時間/10a で従来の主穂先端を利用した場合（対照区）に比べ 43%に短縮された（表 1）。支梗を利用した試験区の摘粒時間は 103 時間/10a で、主穂先端を利用した場合に比べ 83%に短縮された（表 1）。

収量構成要素の比較では、1 粒重及び平均房重とも花穂整形方法の違いによる差はなかった（表 2）。10a 換算収量も同様に差はなかった。なお、1 房の着粒数は、両処理区とも 42 粒程度であった。

表 1 花穂整形方法の違いが花穂整形及び摘粒時間に及ぼす影響

花穂整形方法	花穂整形			摘粒		
	作業時間		対照区比 %	作業時間		対照区比 %
	秒/40花穂	時間/10a		秒/21房	時間/10a	
支梗利用	476	23.7	43	2075	103.3	83
主穂先端利用（対照区）	1104	55.0		2514	125.1	

表 2 花穂整形方法の違いが果実収量及び品質に及ぼす影響

	1 粒重	1 房 粒数	平均 房重	最終 着房数	収量
	g	粒	g	房/5.58m ²	t/10a
支梗利用	8.9	41.5	371	21	1.40
主穂先端利用（対照区）	8.8	41.6	365	21	1.37

○ 今後の方向性

主穂先端に比べ主穂基部に近い支梗ほど開花が早いため、開花の早い花穂では主穂先端の利用し、比較的開花が遅い花穂で支梗を利用することで 1 回目ジベレリン処理期間の短縮（＝省力化）が期待できる。

以上から、開花の早い花穂では主穂先端の利用を、奇形の花穂や開花の遅い花穂では支梗の利用をそれぞれ推進し、果実品質の向上及び省力化を目指す。

実施機関：下都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：栃木市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315